

このうえなく美しく、繊細に  
人生の四季を描く世界文学の傑作が  
新たな映像表現によりみがえる。

ささやかな真実

# UNE VIE

# 女の人生

2016年ルイ・ドリュック賞受賞作品

ヴェネツィア映画祭2016国際批評家連盟賞受賞

原作:ボイド・モーバッサン 監督:ステファヌ・ブリゼ 脚本:ステファヌ・ブリゼ・フロレンス・ヴィニョン 出演:ジュディット・シュムラ/ジャン=ピエール・ダルッサン/ヨランド・モロー/スワン・アルロー/ニナ・ミュリス  
提供・配給:ドマ、ミモザフィルムズ 宣伝:ミモザフィルムズ 後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 協力:ユニフランス  
2016年/フランス/仏語/119分/カラー/スタンダード/ドルビー5.1ch 原題:Une Vie 字幕:齋藤敦子 www.womanslife.jp

TS production partners: Yvonis 2016 - Sélection officielle

Judith Chénin, Jean-Pierre Dumontier, Yolande Moreau, UNE VIE, d'après l'ouvrage de Guy de Maupassant, un film de Stéphane Brizé

SWANN ARLAUD CLOTILDE BESME NINA MÉRISSE OLIVIER PERRIER FINNIGAN OLFITZEL ALAIN BEIGEL STEPHANE BRIZÉ ET FLORENCE VIGNON MILÉNA POYLO & GILLES SACUTO

ANTOINETTE HÉRIBÉ LIONEL KOFF PASCAL JAMME ALAIN SIBONYAL HÉVY GUAYER EMANUEL DE ROUSSEL ANNE KLOTZ OLIVIER BAU MUST ÉRIKLE EDER

BRIGITTE MOUDON CORALIE ABRÉGO MARION PIN VALÉRIE SARADIAN MARLENE FORTUNE HENRIETTE DESSELES KIM SIEFFEN

DOLPHINE PASSANT NICOLAS SACRÉ JACQUES-HENRI OLIVIER BRONCKART JEAN-LOUIS LIVI PHILIPPE LOGE LA PRODIGE ANGO INDEFILMS ELIMAGES ET DU PROGRAMME MEDIA DE L'UNION EUROPÉENNE

CANAL CENTRE NATIONAL DU CINÉMA ET DE L'IMAGE ANIMÉE LA RÉGION HAUTE-NORMANDIE LA PRODIGE ANGO INDEFILMS ELIMAGES ET DU PROGRAMME MEDIA DE L'UNION EUROPÉENNE

CENTRE DE CINÉMA ET DE L'ALPHAVISUEL DE LA FÉDÉRATION W ALLONTE-SIBUELLES CENTRE DE TAX SHELTER DE GOUVERNEMENT FÉDÉRAL BELGE D'INVEST





# フランスの文豪、モーパッサンの不朽の名作の映画化

修道院の寄宿学校から家に戻った男爵家の一人娘ジャンヌは、清純な17歳の乙女。親の勧める子爵ジュリアンと結婚し、希望に胸躍らせ人生を歩みだしたかに見えたジャンヌだったが、やがて信じ難い夫の不貞を知る。それを機に、ジャンヌの人生に対する夢は、次々と打ち砕かれていく――。

原作：ギイド・モーパッサン

Guy de Maupassant (1850-1893)

フランス、ノルマンディー生まれ。パリ大学在学中に普仏戦争に従軍。フローベルに師事、創作の指導を受ける。30歳で発表した「脂肪の塊」で作家としての地位を確立。33歳で発表した「女の一生」はベストセラーになる。10年間で長編6作と中短編300余と旺盛な創作活動を続けたが、神経系の発作に襲われ1892年に自殺を図り、翌年パリの精神病院で死去。



## 女の一生

世界中で何度も映像化されてきた不朽の名作「女の一生」が、再び映画化された。時代も国も超え、1883年に刊行された古典文学の、何がそんなに私たちに魅了するのか――。

恋愛、結婚、出産、子育て、親を看取ること――置かれる立場や状況は違えど、“女の本質”は、そうは変わらない。こと世間知らずなお嬢様ジャンヌは、諸所のつまづきを真正直に、まともにかぶってしまふ。だから濃いドラマが生まれる。濃いから面白く、目が離せない。

一方、ジャンヌの夫ジュリアンをはじめ他の登場人物も、この現代でもたやすく見出せるほど、滑稽なくらいにリアルで人間臭い。また、現代社会をも賑わせる“不倫”についても、どれほど多くの人が“道ならぬ恋”に陥るか、その代償の大きさも含め、古典という言葉のイメージを覆す過激な展開をみせ、観る者の度肝を抜く。古典文学の格調高さと普遍性に、予想を超えた劇的な展開が差し込まれる。それが、「女の一生」の魅力の一つでもあろう。



### 研ぎ澄まされた大胆な演出、美しい映像のミルフィーユ

本作の監督・脚本は、『母の身終い』(12)『ティエリー・トグドローの憂鬱』(15)など、逆境に置かれた人間の静かなる闘いを、リアリズムに徹しながらそこに詩情を流し込んで描く手腕が高く評価されてきたステファヌ・ブリゼ。本作で見事ヴェネツィア国際映画祭2016国際批評家連盟賞、2016年ルイ・ドリュック賞を受賞した。

19世紀の四季折々のノルマンディーの美しい田園そのもののような映像美と、モーパッサンの小説ならではの世界を映画化するために、ストイックな話法で、ジャンヌの人生を時制をこえて重ねる映像のミルフィーユを作り上げた。格調高くも斬新な、その美味なるミルフィーユをご賞味いただきたい。



### 新旧の名優が競演！

ジャンヌを演じるのは、『カミュー、恋はふたたび』(12)でセザール賞助演女優賞にノミネートされ、本作でセザール賞主演女優賞にノミネートされたジュディット・シュムラ。本作では、初々しい17歳から老け込んだ40代後半までを、特殊メイクの力を借りずに自然に演技切って監督を唸らせた。

ジャンヌの父親役には、『キリマンジャロの雪』(11)の名優ジャン＝ピエール・ダルッサン、母には『セラフィヌの庭』(08)のヨランド・モローと、実力派ベテラン勢が存在感を発揮している。スワン・アルロー、フィネガン・オールドフィールドの美青年対決も目が楽しい。

監督・脚本ステファヌ・ブリゼ 原作ギイド・モーパッサン 出演ジュディット・シュムラ/ジャン＝ピエール・ダルッサン/ヨランド・モロー

2016年/フランス/仏語/カラー/119分/カラー/スタンダード/ドルビーデジタル 原題Une Vie 字幕齋藤敦子 ©TS PRODUCTIONS (PHOTO MICHAËL CROTTO) - AFFICHE NUITDECHINE

後援在日フランス大使館/アンスタテュ・フランス日本 協力ユニフランス 提供・配給ダブ、ミモザフィルムズ 宣伝ミモザフィルムズ 宣伝協力サルレーテ、上地 [www.womanslife.jp](http://www.womanslife.jp)

# 12.9(土)よりロードショー

2/2(金)まで

## 岩波ホール

03  
(3262)  
5252

<http://www.iwanami-hall.com/>

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京・山手線)神保町駅A6出口すぐ上

●JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅・下車徒歩12分(神保町交差点角)

上映時間 月～金 11:00/13:30/16:00/19:00 自由席・定員制・

入替制・整理券制

\*12/30(土)～1/2(火)は休館

特別鑑賞券¥1,500好評発売中!(税込/当日一般¥1,800、シニア・学生¥1,500のところ) \*岩波ホールでの販売は12/8(金)まで。